

高野新聞

Vol.57



たかの
高野 たけし

37歳

逗子市議会議員（三期）

- ・議会運営委員会（委員長）
- ・総務建設環境常任委員会
- ・基地対策特別委員会

中央大学大学院修士課程修了

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

◆ 経常収支比率の改善が課題

全国の地方自治体において財政状況の悪化が指摘されていますが、逗子市においても例外ではありません。前年度の決算状況が公表されましたが、財政の弾力性を示す経常収支比率は99.6%と過去最悪の数値となっています。

こうした状況を改善していくためには、事業内容の見直しを行っていく必要があります。全ての事業に対してマイナスシーリング（割合を決めて一律に減額する方法）をかけるのではなく、市民のニーズに合っていない事業を縮小するとともに、一定程度の成果を上げた事業においては凍結するなどの措置を取るべきと考えます。

例えば、壁面の緑化にかかる植栽及び施工費用の一部を助成する「壁面緑化推進事業」や、生ごみ処理容器購入費を助成する「生ごみ処理容器等購入費助成事業」などは、予算額を大幅に下回る決算実績となっています。そのため、事業を縮小したとしても市民生活に悪影響を及ぼすとも思えません。

そこで行政当局に対しては、事業の取捨選択を行うための「仕分け制度」の導入を改めて提言いたしました。

◀ 財務比率の推移 ▶

	実質収支比率	経常収支比率	公債費比率	財政力指数
平成21年度	5.1%	99.6%	9.6%	0.937
平成20年度	5.3%	99.0%	10.4%	0.960
平成19年度	7.6%	96.1%	9.9%	0.971
平成18年度	7.3%	94.0%	10.1%	0.974

実質収支比率：標準財政規模に対する割合。

一般的には3～5%が望ましいとされている。

経常収支比率：経常一般財源に対する経常的経費の割合。

一般的には70～80%が望ましいとされている。

公債費比率：経常一般財源に占める公債費の一般財源所要額の比率。

一般的には10%以内が望ましいとされている。

財政力指数：財政上の能力を示す指数。

この指数が1を超えるほど財源に余裕がある。

政治資金の残り あと 174,552円

(6/1～8/30 の内訳)

支出…証紙(道路使用許可証)

2,000円

名刺(200枚)

5,943円

※今後も政治資金のガラス張りは必ず続けていきます。

◆ ハンディキャブ運行事業の利便性

平成4年度にスタートしたハンディキャブ運行事業も年々利用者が増え、昨年度は251件の利用があったとのこと。この事業は多くの方に喜ばれていると思いますが、予約制度などに対する使い勝手の悪さを指摘するご意見もあります。

そこで、一週間前予約の短縮化に加え、社会参加への利用促進を提案いたしました。(現在の利用理由の95%は病院への通院)

担当部長からは、通院以外の様々なケースでも使っていただけるようPRに努めるとともに、予約制度に関しても状況に応じて柔軟に対応していきたいとの回答をいただきました。

当該事業に限らず、障がい者、要介護者の支援策の拡充については引き続き進めていきたいと思っております。

ハンディキャブ運行事業

既存のバスや鉄道などの公共交通機関の利用が困難な障がい者や老人等の移送手段として、社会福祉協議会が専用車を運行。

◆ 海水浴場のルール改正を提案

今年は猛暑日が続き、逗子海岸にも多くの海水浴客が訪れたシーズンとなりました。観光客の誘致という観点から見ると成功裏に終わったと言えますが、その一方で騒音等による生活環境の悪化を訴える近隣住民の声も例年以上に多く届いています。こうした状況を考えると、逗子海岸を家族で楽しめるビーチにしたいとの方針をもって海水浴場を開設している市の方向性と現実とは乖離していると言わざるを得ません。

そこで、海岸営業協働組合とも連携を図りながら、来年度以降の海水浴場開設期間におけるルール変更を進めていくべき旨、提案いたしました。これに対し担当部長からは、外部委員も入れてルール改正を行うよう海岸営業協働組合に申し入れるとの回答がありました。

この件に関しては進捗状況をチェックし、必要に応じて議会でも改めて問題提起していきたいと思っております。

視察報告

逗子市の中学校給食の方式の一つとして検討されているボックスランチ方式※1を視察するため、東京都狛江市に行ってきました。

狛江市は人口76,281人(平成22年4月1日現在)、中学校数は4校で生徒数は1,271人と逗子市と同規模の自治体です。狛江市の場合、保護者からの要望を受け「中学校給食検討委員会」を立ち上げ、平成7年11月から導入に向けた検討を開始し、平成13年5月からミルク給食を、平成20年10月からボックスランチ方式による完全給食を実施しています。完全給食の導入に至るまでには、衛生面、栄養面、経費等について協議を深めるとともにパブリッシングに多くの時間を費やし、より良い給食体制の確立に努めたとのこと。

狛江市の中学校給食の特徴

- ・衛生面・安全性を考え、主食、副食、汁物用の容器にはABS樹脂によるものを採用。
- ・栄養面を考慮し、栄養士は献立を作成するだけでなく、給食の調理を請け負っている事業所にも毎日足を運び工程チェックを実施。
- ・アレルギー対応のため毎日2種類のメニューを作り、一方は一切卵を使わない給食とする。
- ・献立は一ヶ月単位で作成し、前月の5日までにホームページに掲載するとともに、生徒及び保護者に書面で配布。
- ・給食にするか、お弁当にするかは、メニューを見て一日ごとに選択可能。
- ・申し込みはパソコン、携帯電話からのインターネットか、マークシートにて一週間前までに行う。
- ・一食の給食費は300円(牛乳を除く場合は260円)で、申し込み日数に応じた額をコンビニで収納。

狛江市におけるボックスランチ導入後、半年間の喫食率は78.87%、翌年度一年間の喫食率は72.45%とかなり高い数字で推移していることから、多くの生徒から受け入れられていることがわかります。

本市における中学校給食の検討も今後さらに具体的な方向に進んでいくと考えられますが、何よりも生徒・保護者から喜ばれ、利用される方式での導入を望むところです。



← (写真左)
保温機能を持たせた配膳用ケース



(写真右) →
視察当日のAランチ
セルフコロッケカレーライス
(999kcal)

あなたの声を高野たけしへ

- お名前:
- ご住所: 〒
- 連絡先
 - E-mail:
 - お電話:



民主党逗子市議団 高野 たけし
Tel / Fax: 046-871-7368
E-mail: takano_zushi@yahoo.co.jp

【編集後記】

大正十二年九月一日、関東大地震が起きました。この大惨事を忘れないために、昭和三十年に国土庁(国土交通省)が九月一日を「防災の日」と制定したことから、この時期に各地で防災訓練が実施されるようになったそうです。

逗子市でも総合防災訓練をはじめ、各地域で自主防災組織の訓練が行われたところです。

日本周辺には海底も含めると約二千の活断層があるとされており、今後も大規模な地震が起こりえる可能性は否定できません。

逗子市近郊には三浦半島活断層群があります。仮に、三浦半島活断層群でマグニチュード七・二の地震が発生した場合、県の東部から中央部にかけては震度六弱以上の揺れに見舞われることが予想されています。

いざという時に備えて、津波と洪水に加え、現在新たに土砂災害のハザードマップも市の方で作成中です。

※1 ボックスランチ方式…デリバリータイプの給食。狛江市では委託業者の調理場で作られ、保温機能を持った配膳用ケースに入れて各学校に配送されている。